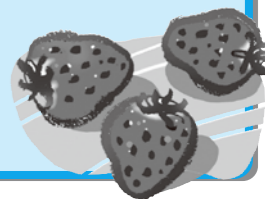


特集



農業まっしぐら！ 新規就農者です！！

今回ご紹介する方々は、農業経験のない人が新たに「農業を職業」として、志を持ち新規に農業を実践しているお二人です。園芸（苺）を経営の柱として勝負しています。今後、このような取組みを参考に各地域で増えるものと考えております。

この先、新たに農業に取り組んでみたいとお考えの方は、お気軽に農業委員会・市農水振興課へお問い合わせ下さい。

では、農業まっしぐら！ 新規就農者の2名の方をご紹介します。

越後姫栽培の「志」を胸に！

豊浦地区 荻野敦史

私は、2年間の研修を終え、現在豊浦地区において3aのハウス4棟で「越後姫」を栽培しています。

福岡県出身で元々サラリーマンをしていましたが、農業を志したい思いが強くなり、妻の故郷である新潟に来ました。



新潟県のブランドである「越後姫」を知り、苺農家になる決意を固め、「越後姫」の生誕の地である紫雲寺地区で研修させて頂きました。また、同時に就農の準備にあたっては、スムーズに行かない事

もありましたが、出会う方皆様には本当に助けて頂きました。土地を貸して下さった地主の方、地域の皆様、市役所、JA北越後さらにも多くの方々にご尽力頂き就農することが出来たと感謝しております。JA北越後青壮年部等にも参加し、同世代の仲間が出来たことも私には大変心強く思っています。

夢であった農業で苺と向き合う日々は、本当に幸せです。まずは家族の生活を作ることに。それには、良い苺を作る事です。師匠の言葉を胸に、一生「新発田」で苺を作りたいと思えます。

家庭や育児を両立し、 苺栽培に奮闘中！

米倉地区 若杉智代子

平成27年度より新規就農し、現在ハウス1棟（4a）で越後姫約1800株を栽培しています。初年度の今年は、栽培知識や技術が乏しい為、色々な方々のご指導を頂きながら

どうか栽培作業も終盤を迎える事が出来ました。日々栽培の難しさに直面し、失敗する事も多々ありました。しかしながら的確なアドバイス頂き、私自身、苗と真摯に



向き合い会話を続ける事で小さい一歩ではありませんが前進出来たように思います。越後姫の栽培は大変難しいですが、奥が深く非常に面白味のある作物だと思っております。全国的にも女性農業者が注目されていますが、同時に女性農業者ならではの課題もあると思います。家庭や育児と両立させながらの難しさを私も痛感してきました。これらの課題も良い方向へ導けるような農業者になれるよう、そして何より一日も早く越後姫の栽培技術を確立し、安定した経営が出来るよう日々努力を続けていきたいと思えます。